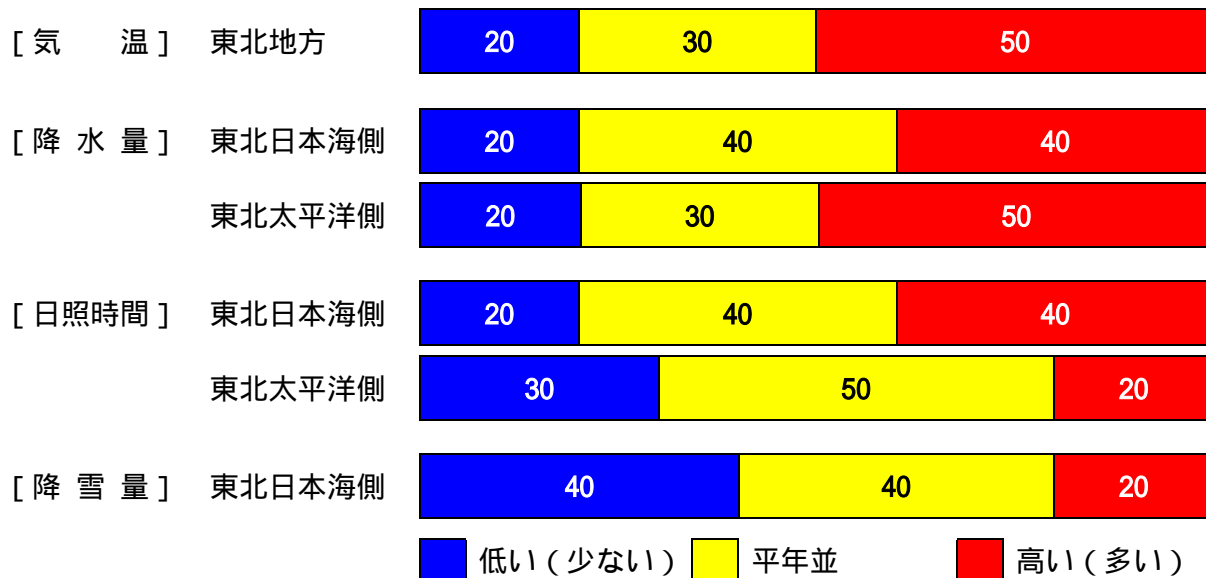


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:2月2日~3月1日)

平成14年2月1日 仙台管区气象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。
東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。
東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2．予想される天候の特徴

(最も高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は概ね周期的に変化し、期間の前半は高気圧に覆われ東北日本海側でも晴れる日があるでしょう。期間の後半には、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置が続く見込みです。

このため、東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

なお、期間の前半は平年より気温の高い日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約7日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目……………

(2月2日～2月8日)

期間の中頃までは帯状高気圧に覆われ晴れるでしょう。期間の終わりは気圧の谷の影響で天気が崩れ、雨か雪が降る見込みです。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約5日

2週目……………

(2月9日～2月15日)

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約5日

3～4週目……………

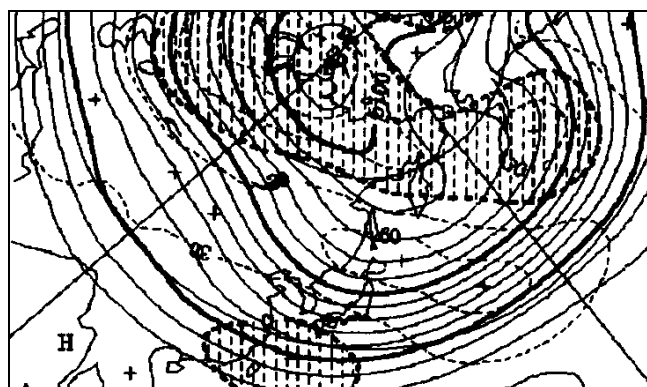
(2月16日～3月1日)

天気は概ね周期的に変化しますが、気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約4日、東北太平洋側約8日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

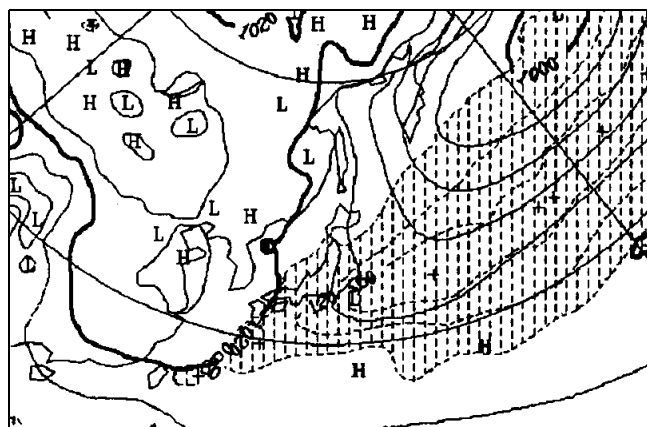


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、タイミル半島付近に極渦があって、高緯度は負偏差に覆われる。また、九州から東シナ海にかけても負偏差に覆われる。一方、中緯度は北海道から日本の東海上に中心を持つ強い正偏差に広く覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化で、強い寒気は南下しにくい。

週別（図略）でも、月平均と概ね同様だが、強い正偏差に覆われるのは1週目。また、3～4週目は東谷傾向に変わる。



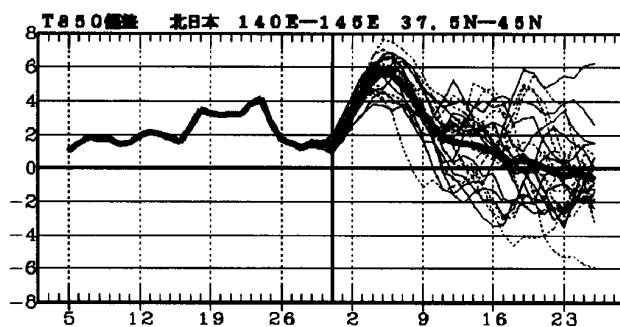
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、アリューシャン列島付近には低気圧があり、西高東低の冬型の気圧配置となっているが、日本付近の等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置は弱い。また、本州南岸や日本海は低圧部となっている。

まとまった降水域は、本州南岸から東海上に延びるが、本州は降水域に覆われる。

週別（図略）でも、月平均と概ね同様だが、2週目は日本海の低圧部が顕著で、3～4週目は冬型の気圧配置が若干強い。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸：気温平年差() 横軸：日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

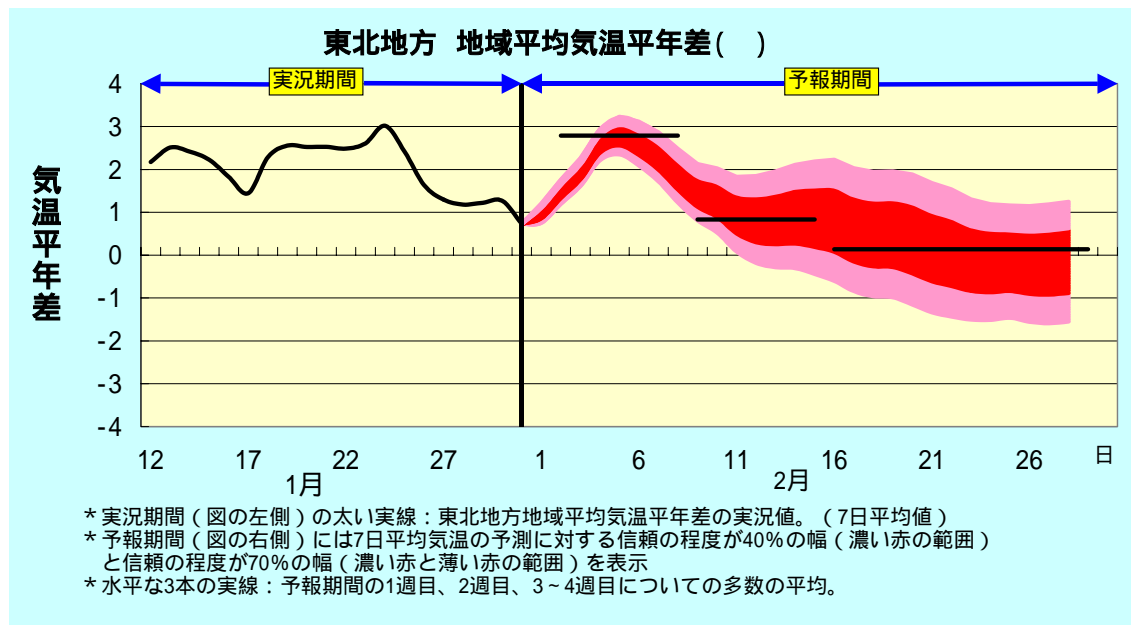
・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目に平年を大きく上回るが、その後下降し、3～4週目は概ね平年並で推移する。

2週目以降はバラツキが大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「高い」、2週目「平年並」、3～4週目「平年並」を予測している。
 予報は、他の予想資料から2週目を「高い」に修正する他は予測通りとする。
 なお、予報の信頼度は小さい。

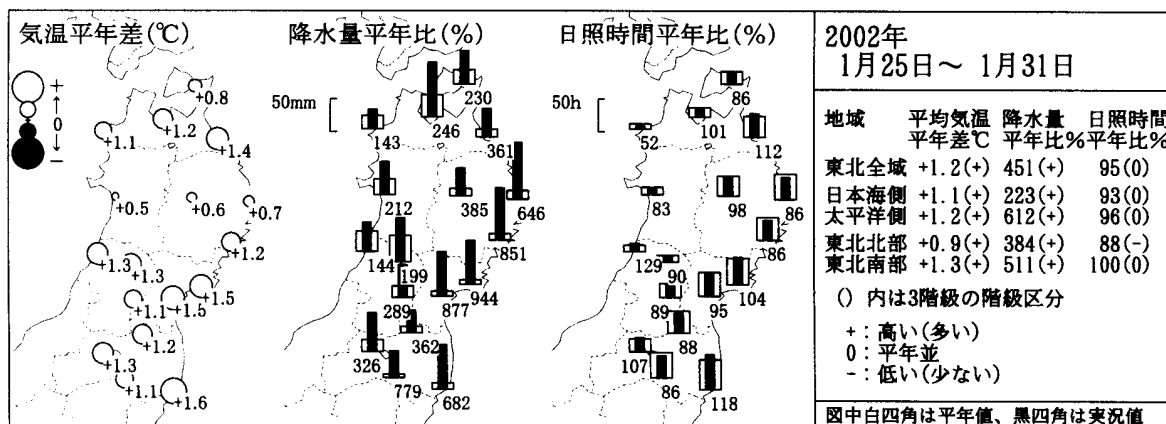


4．最近1週間（1月25日～1月31日）の天候の経過

この期間、26日は高気圧に覆われ晴れたが、27日は低気圧が発達しながら本州の太平洋岸に沿って北上したため、東北太平洋側を中心に大荒れの天気となり、各地で記録的な大雨や暴風となった。日降水量は仙台で67.0mm、日最大瞬間風速は大船渡で34.2m/s、石巻で35.2m/s、小名浜で28.8m/sと極値を更新した。水産物に大きな被害が出たのをはじめ、防波堤や窓ガラスの破損、交通障害などの被害が発生した。

その後は冬型の気圧配置が続くなか短い周期で低気圧が通過し、東北日本海側は雪の日が多く、東北太平洋側では概ね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+1.2 と高かった。降水量は、東北日本海側で平年比223%、東北太平洋側では平年比612%と多かった。日照時間は、東北北部で平年比88%と少なく、東北南部で平年比100%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)